

木育のウラ 1月30日(日)

第1部 木育・森育の学びの始まり

コーディネーター： 若杉 浩一（武蔵野美術大学 教授）、谷地 大輔（パワープレイス）

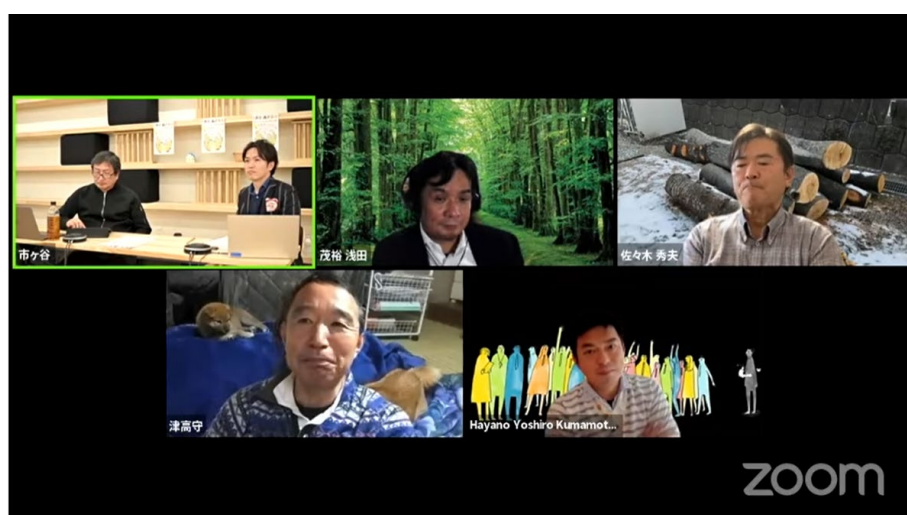
コメンテーター： 津高 守（J R九州コンサルタンツ(株) 取締役副社長）

出演： 早野 仁朗（熊本県立熊本高等学校 教諭 WWL 研究主任）

佐々木 秀夫（宮城県立宮城第一高等学校 芸術科 美術 教諭）

浅田 茂裕（埼玉大学 教授）

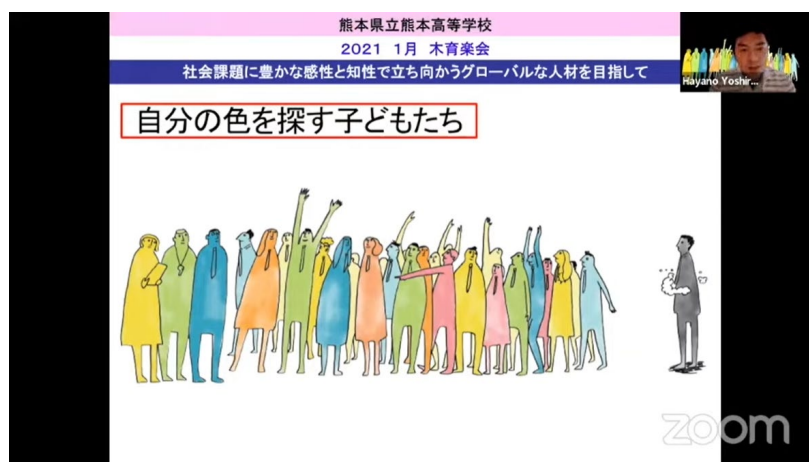
教育の世界で木育・森育という域をも越えた人たち。ともに教えているジャンルは異なるが根底に流れるものは同じなのではないかと。それを聞き出す時間となった。コメンテーターは楽会の皆勤賞を誇る津高守さん。



早野 学校の中で生徒たちが学ぶ意義を感じられていなかったり、どう子どもたちを育てていくのか、未来からの留学生からの学びを奪っていないかと悩みながら仕事をしている。ワクワクして挑戦することが大切なのではないかと。

計画された偶発性。自分自身のキャリアに必要。学習、勉強、修学の違い。偶発性 VS 非偶発性。偶発性と相性が悪いのが合理性、規則性、成果性など。相性がいいのは好奇心、持続性、柔軟性。すぐに役立つものはすぐに役立たなくなるということはわかっているはずなのだが。

日本の進むべき道、STEAM 教育。リベラルアーツの要素を編み込んだ学びである。失敗を恐れない。



佐々木 宮城野高校で彫刻を担当。抽象の木彫をやらせていた。東日本大震災後、被災地の沿岸部で被害を受けた地域の支援をしたい、美術の力を使った支援ができないかと。1年かけて「虹のアートプロジェクト」を起こした。仮設住宅を訪問して学生の作品を飾ったり絵を贈ったり。2年たった頃に、運命的な出会いが。九州の宮崎県から先生方が支援活動でいらして、お互いの高校生が交流し始めた。その中に串間先生がいらっしやって、宮崎の特産の飴肥杉シートをご紹介いただいた。これで何か作らないかと。そこから飴肥杉とのつながりが生まれ、そのとき先生に作っていただいたのがこれ（飴肥杉仮面）。これは何ですかと聞いたら「これは宮崎ではみんなが普通に持っている仮面です」と。それ以来私も飴肥杉の虜に。飴肥杉シートの宣伝マンだと自負している。



浅田 木育を私が続けている理由を吠えてみる。実は木育を研究したことはない。30歳で准教授。アメリカに留学。37歳で学部長補佐。2006年ごろに忙しすぎて記憶がなくなった。第一次変態期の訪れ。2007年から林野庁の木育の事業に関わった。40歳で教授に。2012年に電通の木育を手伝い。なんかおかしいと変態が本格発症。自分でやろうと2014年にNPOを立ち上げて今に至る。専門領域は木材加工。木質材料学、快適性の評価。木育の第一人者と言われて嫌で仕方がない時期も。大きなものに巻かれたくない。子どもと木材が真っ当に

好き。人生を変えた出来事。アメリカから帰ってきて衝撃を受けたことがきっかけ。落ちたら死ぬような遊具。親が公園で遊具から落ちないように支える姿。親を自立させないため？アメリカの遊具は高さが低い。地面にはウッドチップが敷かれていて落ちてもしがをしない。「この国はどこかで間違えてしまっている」。いいものとされているものの正体は？確かな学びとは何か、リスクはだれが負うべきか。木育がファッションになっていないか。「真っ当に進めたい。このくらいでいいだろうとは思わない」



津高 昨日から浅田先生テンション高かったなど。なるほど、これを吠えるためかと。佐々木先生の話で、北と南でもつながる人はちゃんとつながっているんだと。いろんな偶然が今を作っているのは確か。「この国はどこかで間違えてしまっている」というのは我々の年代の共通な認識だと思う。

<佐々木先生による高校生の作品の紹介>

佐々木 飼肥杉シートを加工した作品。デザインから製作まで。シートを活かしてランプシェードを作る。木を使ったカービングなどの作業はなかなか最後の仕上げまでの工程は思い通りに行かないことが多く、大変だと感じていた。デザインをもっと重視して作業をしてほしかった。また材料になる飼肥杉の話もして、木の背景を知り、その中で特性を生かさないと失敗することも多々ある。自然の木の持つ良さもあり、学生にとってはいい材料だなど思っている。

浅田 思い通りに行かないものと対話するというのは、学生にとってとても大切な時間だと思う。

若杉 探求型学習の学生の反応は？

早野 二つに反応が分かれる。思いきり楽しむ生徒と、好きにやっていいと言われて何をしたらいいのか悩んでしまう学生と。テーマが決められなくて予定調和をしてしまう、時間をもったいないと数学の勉強を始めてしまうとか。テーマを見つけた子は勉強を早く終わらせて、好きなことをやっている。

3年生で志望校を出す時に「自分は今これでいいのか」と泣いて話してくる子はある。どこで気が付くのかということだと思う。

若杉 テーマを自分で決められないというのはどこから出てくることなのか。

早野 大人がいっぱいしゃべりすぎる時間を過ごしてきたということだと思う。親の言うことを聞いておけば大丈夫だと思っていると、自分で考えられなくなっている。最後は人のせいにしてしまうとか。自分と対話する時間、それを持つことが大切。自分の中で納得する時間を持つかどうか。大人がしゃべらない時間を作ることが大事なんだと。

浅田 自主的に遊びこんでいくから、学び手が育つ。それが中高生になると先生がたくさんしゃべって、遊ぶ時間がなくなってくる。佐々木先生の材料だけ与えて考えさせる、あれは高等な遊びだと思う。その時間を、社会が作っている私たち全体で奪っているのではないかと思う。

早野 子どもは思ったより大人と対話したがっている。その中でいいところを見つけてあげる、成長を認める。そうすると子どもは大人と対話をするのかなと

若杉 対話する時間、対話そのものを避け、できるだけ会話で過ごしてきた。期待できるのは先生たちの活動の中で、果敢に対話を挑んでくる子供たちがまだまだ存在することに未来は明るいと感じたりする。社会に従わざるを得ないところはあるが、新しい社会を作っていくために自分事としてとらえる人たちはいるし、何らかの機会に作っていかなければいけないといつも思っている。今日、先生方もそれを感じてやっというらっしゃると思った。

第1回 木育・木育楽会 **カラ** 第1部 (10分玉のかしこ) 他

2022年1月30日
 杉たけクラブ 日向市の駅

津高守さん 1961生まれ
 JR九州コンサル
 土木専門 たった1人

- 木質化
- ・大分支社
 - ・日豊本線成野駅
 - ・上熊本駅
 - ・日田駅 (H26)
 - ・六本松キッズ (H28)
- 「木愛」で進みたい



木材をテーマにして
 終りではない
 ストーリーを
 作り

佐々木秀夫さん 宮城第一高 芸術科



東日本大震災
 ↓
 芸術科の力で何か
 できないか...
 ・被災地の仮設住宅に
 作品をかざる活動



北と南で
 出会う人
 出会う!

宮崎県の高校との交流が活躍
 (リマヤヨイ先生)
 オビ杉を紹介される
 (オビスキート)

ハワード・ジョイス 谷知さん



小の息子
 進行役
 日記
 コア内感
 はどう
 和?

対話をなく
 会話で解決
 してしまう社会
 若杉浩一先生
 (武美 教授)
 コメンテーター

探究型の学習は
 ・楽しむ(節で考える)
 ・ムリと切り替えるに極力
 自分と向きあう時間が大切

4年間
 学生さんが
 作り作り。
 素材や産地
 と向きあう経験に。
 オビ杉仮面
 宮崎の人は皆知っている

早里多仁朗先生

若杉さんの後人
 進学校の先生
 ・学校できちんと学べてる?
 ・何のために学んでる?

熊本高校 先生



大人が子供を認める
 瞬間を大切に

浅田茂裕先生

熊本出身 '95 埼玉大(28才)
 ・地雷がある
 本来は 木木木質
 30才で助教
 35才で渡米
 37才で学部長ホサ
 40才で教授

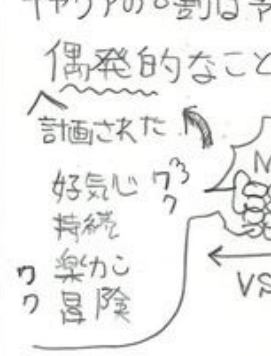


思い通りに
 いかないものと
 向きあう大切
 自己超越
 の4原則
 を大切に
 忙しい

課題を発見する能力

キャリアの8割は予想しなかつた

偶発的なことで形成される。



大人が子供を認める
 瞬間を大切に

おかしな... 自立させない
 社会か?!

W

ってなつて 2014年 NPO 立上げ

- 木育をはじめたのは...
 ・大学で 木材加工
 ・委員会に選ばれる
 ・大学から逃げたい
 ・情性、仕方なく
 ・困ってるのと助けたい
 ・子供と木材が好き



フアンションとして木育をまとめるヤリがある!

1 日目の第2部に出演された平田美紗子さんによるイラストレポート